

## ローダンセマム新品種「クレールシリーズ」

小枝 剛・粥川 壯優\*・加藤 克彦

### New Rhodanthemum Cultivar "Clair Series"

Tsuyoshi Saeda, Takehiro Kayukawa and Katsuhiko Kato

要約：北アフリカ原産でキク科の常緑多年草であるローダンセマムは、耐寒性が強く、冬春にかけて開花することから、花の種類が少ない冬場に彩を与える品目として有用である。

そこで、既存の品種には花茎の曲がり、花色の少なさ、花の大きさなどの改善すべき点があり、改良することでさらなる市場への供給能力が高まると考え、草姿改善、花色のバリエーション拡大、花の大型化を目的に、ローダンセマムの既存品種間で交配を実施、得られた種子から発芽した個体の中から草姿・花色・花の大きさなどに優れた4系統を選抜した。

これらをそれぞれ「クレールローズ」、「クレールピーチ」、「クレールチェリー」及び「クレールルージュ」と命名し、農林水産省へ品種登録出願を行った。

キーワード：新品種、草姿、耐寒性、花色、花径

#### 緒言

ローダンセマムは、北アフリカ原産のキク科の常緑多年草で、耐寒性が強く冬季に長期間開花する品目であり、消費者とともに生産者からの人気が高まっている。しかし、既存の多くの品種は花茎が細く柔らかいため開花時に倒れやすく、ほふく性も強いため、草姿が整わない。また、花色は白や薄ピンクが主体でバリエーションに乏しく、花が小さいなどの欠点を有していた。

そこで、これらの改善を目標とした育種を行い、新品種「クレールローズ」、「クレールピーチ」、「クレールチェリー」及び「クレールルージュ」の4品種をクレールシリーズとして育成したので、その育成経過および特性を報告する。

#### 育成の経過

「クレールローズ」及び「クレールピーチ」は、いずれも2013年に行ったローダンセマム品種「エルフピンク」と「スワン」の交配から得られた種子から2014年に選抜した(第1表)。

「クレールチェリー」及び「クレールルージュ」は2014年実施の交配にて得られた種子から2015年に選抜し、その交配組合せは「クレールチェリー」

がローダンセマム品種「エルフピンク」と「シェルピンク」、「クレールルージュ」が「シェルローズ」と「エルフピンク」である(第2表)。

いずれの選抜個体も、選抜の翌年度に生産性調査及び特性検定を実施し、有望性を確認した。

「クレールローズ」及び「クレールピーチ」は農林水産省に対し2016年に品種登録出願を行い、2019年3月に品種登録された(クレールローズ：登録番号27362、クレールピーチ：登録番号27361)。

そして、「クレールチェリー」及び「クレールルージュ」は、2017年に農林水産省に対し品種登録出願を行った。

第1表 「クレールローズ」及び「クレールピーチ」の育成経過

2013年	ローダンセマムの既存品種間で交配を実施。
2014年	6交配組合せ計206個体の実生を得て調査。 「エルフピンク」と「スワン」の交配から有望な2個体を選抜。
2015年	生産性調査及び特性検定により、選抜系統の有望性を確認。

※現在：西濃農林事務所

2016年	本選抜系統を‘クレールローズ’， ‘クレールピーチ’と命名し，農林 水産省に種苗登録申請。
2019年	品種登録

第2表 ‘クレールチェリー’及び‘クレールルージュ’の育成経過

2014年	ローダンセマムの既存品種間で 交配を実施。
2015年	21 交配組合せから計 3,379 個体の 実生を得て調査。 ‘エルフピンク’と‘シェルピンク’ そして‘シェルローズ’と‘エル フピンク’の交配から，それぞれ有 望な1個体を選抜。
2016年	生産性調査及び特性検定により， 選抜系統の有望性を確認。
2017年	本選抜系統を‘クレールチェリー’， ‘クレールルージュ’と命名し，農 林水産省に種苗登録申請。

#### ‘クレールローズ’及び‘クレールピーチ’の特性

‘クレールローズ’及び‘クレールピーチ’の生育特性を明らかにするため，交配親である‘エルフピンク’を対象に特性調査を行った。概要は第3表のとおりとした。

第3表 特性調査の概要

供試品種	育成品種 ‘クレールローズ’ ‘クレールピーチ’ 対照品種 ‘エルフピンク’
耕種概要	挿し木 2015年9月17日 鉢上げ 2015年10月5日 鉢替え 2015年12月11日 用土 pH調整ピートモス 施肥 ロング肥料 391-100タイプ を 5g・L <sup>-1</sup> 混合

#### 生育特性

‘クレールローズ’の草姿は対照品種‘エルフピンク’よりやや大柄で，茎太は太いため花首は曲がりにくい(第5表、第1図)。花型は対照品種と同じ一重咲きである。花弁が斜上となるため，花径は

比較的小さいが舌状花数は多い(第6表)。花弁の色は対照品種より濃いピンクとなる(第6表、第2図)。

‘クレールピーチ’は，対照品種‘エルフピンク’とほぼ同等の草姿を示すが，茎太は太く花首は曲がりにくい(第5表、第1図)。花型は対照品種と同じ一重咲きであるが，花径は大きく，舌状花数も約2倍でボリューム感に優れる(第6表)。花弁の色は表側が白，裏側が淡いピンクのバイカラーとなる(第6表、第2図)。

#### ‘クレールチェリー’及び‘クレールルージュ’の特性

‘クレールチェリー’及び‘クレールルージュ’の生育特性を明らかにするため，交配親である‘エルフピンク’を対象に特性調査を行った。概要は第4表のとおりとした。

第4表 特性調査の概要

供試品種	育成品種 ‘クレールチェリー’ ‘クレールルージュ’ 対照品種 ‘エルフピンク’
耕種概要	挿し木 2016年9月26日 鉢上げ 2016年10月17日 用土 pH調整ピートモス 施肥 ロング肥料 391-100タイプ を 5g・L <sup>-1</sup> 混合 追肥 2016年12月16日，2017 2月6日，3月17日にIB 肥料を3粒/鉢

#### 生育特性

‘クレールチェリー’の草姿は，対照品種‘エルフピンク’と同じ直立となる。茎太は太く，花曲がりはない(第7表、第3図)。花径は対照品種より大きく，花色や花型及び舌状花数はほぼ同等となる(第8表、第4図)。

‘クレールルージュ’の草姿は，対照品種‘エルフピンク’と草丈はほぼ同等であるが，斜上のため開張気味となる。一次分枝が多く花付きが良かったため，ボリューム感に優れる(第7表、第3図)。花径は対照品種より小さいが舌状花数は多く，花色は既存品種にない濃く赤みがかかったピンクになる(第8表、第4図)。

クレールシリーズの開花始期は、‘クレールルージュ’を除く他3品種は対照品種‘エルフピンク’より早く、早い順から‘クレールローズ’、‘クレールピーチ’そして‘クレールチェリー’となる。‘クレールルージュ’の開花始期は対照品種と同時期となる(第5表、第7表)。

第5表 ‘クレールローズ’及び‘クレールピーチ’の形態特性と開花性

品種	草姿	草丈 (cm)	株幅 (cm)	茎太 (mm)	一次 分枝数	葉色	開花 始期
クレールローズ	斜上	42.0	29.4	3.6	11.9	穏緑	早
クレールピーチ	斜上	38.9	25.5	3.3	22.6	穏緑	やや早
エルフピンク	直立	38.9	23.9	2.7	16.5	灰緑	中



クレールローズ

クレールピーチ

エルフピンク

第1図 草姿の比較

第6表 ‘クレールローズ’及び‘クレールピーチ’の花の特性

品種	花径 (cm)	舌状花 の向き	舌状花 の数	花弁表面 の色	花弁裏面 の色	花盤の 主な色
クレールローズ	4.7	斜上	46.4	77D (淡ピンク)	75D (ピンク)	183A (茶褐)
クレールピーチ	6.1	水平	60.8	155D (白)	77D (淡ピンク)	165B (黄)
エルフピンク	5.5	斜上	33.8	69C (淡ピンク)	69C (淡ピンク)	187A (濃褐)



クレールローズ



クレールピーチ



エルフピンク

第2図 花形, 花色の比較

第7表 ‘クレールチェリー’ 及び ‘クレールルージュ’ の形態特性と開花性

品種	草姿	草丈 (cm)	株幅 (cm)	茎太 (mm)	一次 分枝数	葉色	開花 始期
クレールチェリー	直立	27.2	21.0	3.4	15.4	灰緑	やや早
クレールルージュ	斜上	24.3	33.3	3.0	23.1	穏緑	中
エルフピンク	直立	25.6	23.8	2.8	15.6	灰緑	中



クレールチェリー



クレールルージュ



エルフピンク

第3図 草姿の比較

第8表 ‘クレールチェリー’ 及び ‘クレールルージュ’ の花の特性

品種	花径 (cm)	舌状花 の向き	舌状花 の数	花弁表面 の色	花弁裏面 の色	花盤の 主な色
クレールチェリー	5.8	斜上	34.5	75D (ピンク)	75A (ピンク)	187A (濃褐)
クレールルージュ	4.0	斜上	42.1	58A (濃赤ピンク)	59C (濃赤ピンク)	187A (濃褐)
エルフピンク	4.7	斜上	34.6	69C (淡ピンク)	69C (淡ピンク)	187A (濃褐)



クレールチェリー

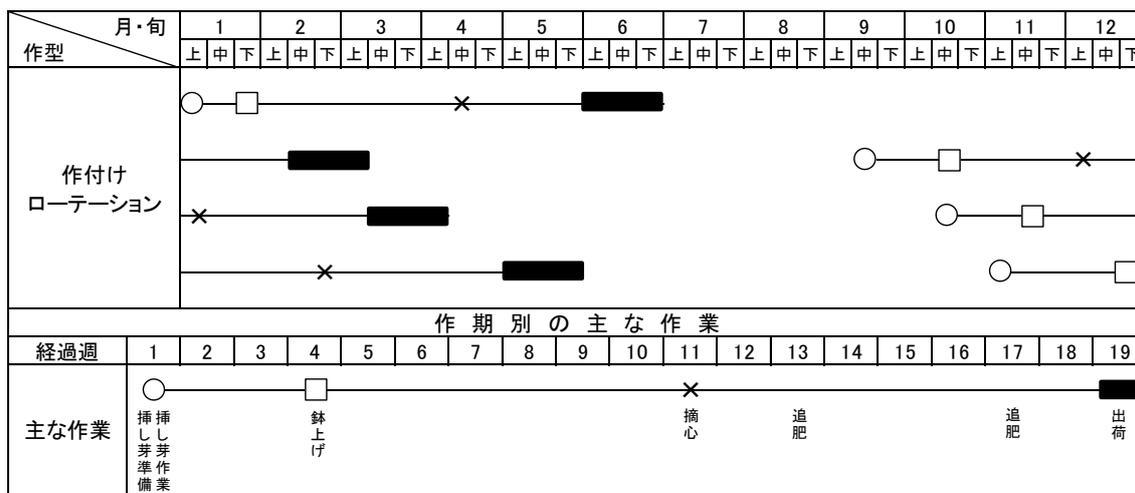


クレールルージュ



エルフピンク

第4図 花形, 花色の比較



挿し芽：○ 鉢上げ：□ 摘心：× 出荷：■

第5図 ‘クレールローズ’の作型

2. 普及性

ローダンセマムは、耐寒性が強く、5℃以上の気温があれば生育することから、暖房費等生産コストの軽減が期待できる。また、冬春にかけて開花することから、一般的に花の種類が少ない冬場に彩を与える品目として有用である。

クレールシリーズの場合、夏期高温期を避け、9月中旬から1月上旬に挿木を実施することで、長期(2月~6月)に渡り出荷が可能である(第5図)こと及び既存品種に比べ草姿、花の大きさなどが優れることから、他産地より有利販売が期待できる。

3. 栽培上の留意点

基本的に日照を好む植物だが、光が強い7~9月頃は、50%前後の遮光下で栽培し、10月中旬以降は十分に光が当たる条件で栽培する。

高温は好まないため、30℃以上の高温が連続する場合は、適宜、遮光と換気等に努める。

花茎は他品種と比べ丈夫であるが、伸長性が良いため、施肥の過剰防止や低温管理に努める。また、わい化剤の知見として、パクロブトラゾール3,000倍溶液を摘心10日後に散布処理すると、花茎の伸長抑制効果が認められる。

Abstract

Rhodansemum, an evergreen perennial of the Asteraceae family native to North Africa, has

strong cold resistance and blooms in winter and spring.

It is useful as an item that gives color to winter when there are few kinds of flowers.

Therefore, for the purpose of improving the grass shape, expanding the variation of flower color, and increasing the size of the flower, crossing was carried out between the existing varieties of Rhodan semum.

From the individuals germinated from the obtained seeds, 4 strains with excellent grass shape, flower color, flower size, etc. were selected.

These were named 'Clair Rose', 'Clair Peach', 'Clair Cherry' and 'Clair Rouge', respectively, and a variety registration application was submitted to the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Key words

Cold Resistance, Flower Color, Flower Diameter, New variety, Plant posture,